

○5番（山口良広君）〔登壇〕

おはようございます。ただいま議長より登壇の許可を得ました山口良広です。一生懸命、武雄市発展のために私なりの視点で質問し、また、提案したいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

質問に入る前に、皆様に紹介したい話があります。それは、一昨日、7日の夕方、なかつ旅館の田中社長から電話があり、「ちょっと話したいことがあるけん、どこにおるや」とのことで、「ハウスにおるばい、今から来っけんよかや」となり、「よかばい来んしゃい」と話が弾みました。実は、土曜日の夜にテレビドラマ「はだしのゲン」に出演された中井貴一さん夫婦がなかつ旅館に泊まれたとのことでした。そこで、ブログに載っていますけど、舞台「カーディガン」、大千秋楽を迎えることができました。連日満員のお客様にお越しいただき、スタッフ、キャスト、心よりお礼申し上げます。その舞台終了後、佐賀の友人の御実家であります武雄のなかつ旅館に。そこでいただいたのが、（発言する者あり）武雄名産レモングラスをなべに入れて良好な香りが漂い、若楠ポークを入れてしゃぶしゃぶにして食べる。実にレモングラスの香りと豚肉がマッチし、皆さん、体に優しく、食べながらアロマセラピー、皆様もぜひお試しを、武雄はお湯もよいですよとなり、このように武雄の物産館から取り寄せた武雄産のいろんな野菜をおいしく食べてもらいましたとの話でした。

また、ハウスには日曜日に福岡ナンバーのBMWの格好いい車で家族の皆さんが来られ、「レモングラスにはここで栽培されているんですか」とのこと。「事務所はあいとらんけん私のハウスに来んしゃい」となり、これまたレモングラスを飲みながらの農業談義、食料談義となりました。「私たちはどんなに外国産が安くても日本の安全な食料しか食べませんよ。現に中国、台湾からの観光客は北海道や京都、奈良などの観光地に行くかもしれないけれど、最後は温泉と食が豊かな九州よ」と言われました。中国、台湾の富裕層はけたが違うとのこと。それよりもシンガポール、マレーシアなど、東南アジアの富裕層はまた違うとのことでした。「そこんたいばターゲットにしてあなたたち農業者の皆さんも、武雄も頑張んしゃい」とのことでした。

T P Pの問題が議論されています。それも断固反対は言うに及びません。今、ちまたでは麦が一生懸命つくられております。米も収穫が終わりました。今、戸別補償ということで反当1万5,000円が支給されようとしております。米30キロに換算すると1袋当たり1,000円の補助です。7,000円の米が8,000円です。7,000円に1,000円の上乗せです。しかし、これが5割安くなると4,000円、2分の1になると2,000円です。こんなに安くなったときに米農家は成り立つものじゃありません。ライスセンターを利用し、ラジコンヘリを利用しながら栽培しております。それらを支払ったら全然手元に残らないというのが現実です。そうならば除草剤も使わずに、農薬も使わずにつくれば無農薬の有機でいいじゃないかという話もあるかも知れません。10アールと言えは10メートルに100メートルの田んぼです。それを私たち

の小さいころには、田んぼを1メートルぐらいの幅で四つんばいになりながら一生懸命草をとっていたのです。そう考えると1町と言えば100メートルの10倍、1キロを四つんばいで歩かなくてはならない。それが除草作業です。そんなことは今の現在できるようなことではありません。

それならば、ライスセンターを利用しなくて米ができるかと言えば、私たちの黒尾の地区には武雄神社のしめ縄用にとということで、バインダーで田刈りして、その後、竹組みに干して、その稲わらを献上している農家がおられます。軽トラックにいっぱい竹1反分を山から切ってきて、それに一つ一つ干しながら乾燥したのが手乾燥です。そんなのが1町も2町も、また、5町も10町もと何十倍もつくれるようなものでありません。

そう考えると、このTPPが妥結されたときには、日本から米づくり、麦づくり、また、畜産農家も同じです。全部がもう働けば働くほど赤字になるのが農業だと思います。その点をぜひ皆さんも考慮して、今後、TPPに対する勉強をしっかりと我々農業者を守る政策を頑張ってもらいたいと思います。

では、一般質問に移ります。

まず、11月に行われた武雄のがばい物産まつりでは、たくさんの人の御来場者があり、にぎわっていたようです。そこでいろんな商品が出品されていきました。どれも武雄市民として自慢したくなるようなものでした。それらを含めて、この物産まつりをどう評価されているのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

渕野営業部長

○渕野営業部長〔登壇〕

おはようございます。武雄市の物産まつりの評価についてでございますけれども、先ほど言われましたように、11月の13、14日の2日間、武雄競輪場で開催をいたしました。両日も好天に恵まれ、昨年を上回る多くの来場者がありました。

で、出店者数でございますけれども、昨年は武雄陶器市として焼き物コーナーを拡大して開催しましたが、今年は焼き物コーナーへの出店が少なかった関係で、出店数については本年度93、昨年度は126店舗でございます、ことしは少なかったという現状がございます。

売り上げについてでございますけれども、これはガラポン抽せん券の補助券の回収結果から販売実績を算出しておりますけれども、売上額は全体で対前年比が95.4%、これは先ほど申しましたように、武雄陶器市として昨年は焼き物コーナーを拡大して開催いたしました35店の出店がありましたが、今年は焼き物コーナーは4店舗と減少をいたしました。で、全体的な売り上げがこういうことから減少をしたものというふうに思っています。

これでもなお物産コーナーですね、特産品コーナー、商業コーナー、農業コーナーもですが、売り上げは昨年より伸びています。具体的に申し上げますと、物販コーナー、平

成21年度は590万6,500円、ことし平成22年度623万7,000円ということで33万500円の増です。J Aコーナーが昨年度150万9,000円に対しまして平成20年度は191万7,000円、40万8,000円の増で、先ほどから申し上げておりますように、陶器市コーナーについては、本年度の売り上げ、これはガラポン抽せん券で推定した金額ですけれども、なしということで、平成21年度が113万1,500円で、この分の減が113万1,500円。全体的に平成21年度は854万7,000円の売り上げに対しまして、本年度の売り上げ815万4,000円ということで39万3,000円の減というふうになっております。

これにつきまして、物産まつりを開催しました後に出店者の方々等との話し合い、アンケート等をとった結果でございますけれども、今回の物産まつりに出店して事業所、商品のPR効果はありましたかということでお問い合わせをしたところ、効果があったということで71%、こういうことから今年度の物産まつりについては成功したのではないかというふうに思っています。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

また、武雄古唐津焼など、陶芸家の方も市内にはたくさんおられます。どれもが武雄を自慢したくなるものばかりです。また、ほかにも武雄市内には宮地ハムさんやなるせのしょうゆ、宮本さんの美人豆など、またお茶、お米などいろんな産物があります。これを身近な贈答品として冠婚葬祭、お中元、お歳暮などとして、また、武雄市内の各ホテルのフロントやロビーに展示することにより武雄の物産の販売をやってもらいたいと思っております。それをぜひカタログ等で製作して、そのカタログでの武雄市内版のカタログ販売というものができないかなということを提案したいと思います。

そこで質問です。11月3日の武雄市表彰式での副賞は何だったのでしょうか、お尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

市の表彰の記念品でございますが、物というふうになれば、いろんなよかったとか、余りというようなそんな意見がございまして、悩んだ末に平成18年度からカタログギフトをお贈りいたしております。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

私もこの質問をするに当たり、市民の皆さんから話を聞いたわけです。20年間以上その方は消防団でしたけど、消防活動を一生懸命して市民表彰ということで、どんなものが武雄市の物産もらえるのかなと思って、わくわくして行って帰ってきて、床の間に飾ろうかな、どこに飾ろうかなと、わくわくした感じで中身を見たそうです。そのときに、今言われますようなカタログギフトであったということで、がっかりされたということを知ったわけです。

武雄にはいろんな陶芸家、また、物産にも宮地ハムとか、なるせのしょうゆさんとか、今言いましたようなすばらしいいろんなものがあるわけです。それを部長答弁のように、これを固定したら好き嫌いがあるかもわかりません。それならば市内版のカタログというものをつくることによりまして、それを利用し、その中から個人の気持ちにより決めてそれもらおう、そういうふうなカタログギフトをつくったら、先ほど言いましたように、冠婚葬祭やお中元、お歳暮、また、いろんな人へのプレゼントのときに、この中から武雄のものを見つけてくださいと言えば武雄の物産の販売は大きく広がるんじゃないかと思います。

それをぜひつくってもらったらなということが私の提案です。どう思われるか、お尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、いい考えですね。やっぱり、そりゃそう思うですよ。私もさっきちょっと勉強して聞いたら、いや、カタログは市内の業者ですけども、やっぱりあるものがね、例えば、東京のものだったり福島のものだったり、これはちょっとおかしかですもんね、やっぱりもうおっしゃるとおりだと思いますね。

ですので、そういう意味からして、私たちとしてはちょっとこれから検討に入りますけれども、例えばハムだったら宮地ハム、しょうゆやったら、例えば角しょうゆとか、お茶やったら松尾さんとか原さんとか、さまざまいらっしゃると思いますので、そういうことでちょっと組み合わせてみたいなと思っています。

ただ、もとよりちょっと私が議員と意見が根本的に違うのは、やっぱり世代の差もあるんじゃないかな。もう置物とかいらんばいて。それよりやっぱり自分の欲しかとば、何というんですかね、やっぱり身の回りの、これだけ今不況でもあっけんですよ、こういう自分の生活に直結したものを欲しいという声もあることはあるとですよ。だから、それは多聞第一。いろいろ意見を聞き、業者の皆さんとか、あるいはどういうことを欲しておられるか。そして、先ほど言ったように、カタログのよさというのは選択肢の多さだと思うんですよ。それはよく考えて議員の意見を取り入れながら検討を始めたいと、このように思っております。

よい意見をありがとうございました。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひそういう形で検討してもらえれば、消費が冷え込んでいる武雄の商店街に幾らか売り上げにもつながればと思っております。

また、その中には飲食店街の飲み食い券のごたっ形でもいいと思います。いろんな形で市民ニーズを大いに取り入れていいものができることを期待いたしたいと思います。

では、次に移ります。

市長は健康と医療のまちづくりということで訴えておられます。そんな中で、私の身内の者ですけど、お盆のとき子どもたちが集まりまして、どうも親がちょっと痴呆のごたっけんどがね、こいごっといごっとい家に置いとけば、家族みんなが外で仕事しているときに家に一人おったら孤独で寂しかごとしとらすけんがデイサービスにやったがよくなかろうかということで考えまして、僕も長男ですので、弟や妹の意見を聞きながら「よし、おいが言うたい」ということで、「介護の認定ば受けんばいかんよ」と言うて、そして、「昼間だけサービスでも受けてよかたいね」ということでしたわけです。そしたら、どっこいこいまた「なし、おいば介護認定ばして施設に追いやあつもりや」と、「今まで一生懸命百姓ばしてきたおいば追いやあつもりか、わりや」と言うて、もうひどくくるわれて、「おりや、あんたのために一生懸命しよおとばい」と言えば言うほどあっちもかっかくるし、こっちもかっかくる。「ああ、大変なことだな、介護というものは」と思うたわけです。ここの議会にも、いろいろ先輩たちがそのことを悩まれたことがありました。私もこれからこれが始まるんだなということをつくづく思うたわけです。

そこでお尋ねです。武雄市内における介護認定の現状はどうなっているのか、また、その介護認定の手続の方法と介護認定に対する地域での説明や、その支援対策はどうなっているのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

介護の認定の状況から申し上げます。

介護の認定につきましては、基本、1号被保険者、これは65歳以上の方が対象になっております。それから、40歳から65歳未満の方、この方々が第2号被保険者ということになっておりまして、第1号被保険者の状況で言いますと、一昨年からの状況ですけれども、平成20年が2,401人でことしが2,496人ということになっております。

それから、第2号被保険者の数ですけれども、平成20年が79人で22年が67人という数字になっておりまして、第1号のほうでは微増という感じになっておりまして、第2号では若干減っているという状況でございます。

それから、介護保険の申請ですけれども、要介護の認定ということで申請書、それから、医師の意見書等を添えて申請をしていただくということになっておりまして、市のほうでも健康課のほうで支援をしているという状況でございます。支所のほうでは、それぞれ山内、北方両支所で取り扱いを行っているという状況でございます。（「部長、地域の支援に対する質問は」と呼ぶ者あり）

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

介護保険の地域での支援ということでございますけれども、介護保険につきましては、御承知のとおり、介護保険の施設等もございまして、それから、指定居宅介護支援事業所というのがございまして、そういったところでそれぞれ介護の支援を行っていただいているという状況でございますけれども、地域においては、例えば、老人クラブにおきまして介護の出現がしないような対策とか、我々のほうとしてもそういう対策も講じているところですが、それぞれの団体に支援をお願いしているというところがございます。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

今、私がお尋ねしたいのは介護認定を受けたり、また介護、こんなものがあるよというふうな説明というものが、私も、私の親でも今まで婦人会とか、いろんな団体をしてきた中で知り尽くしているものと思っていたわけです。老人クラブの中でも時々、今度、私たちの川上の三葉会でも説明がありますように、あっているわけです。そんな中で、いざ介護の時期になったときに、もっと介護を受ける人の家族やその本人に対して、こういうふうにして方法があるよというふうなことのアドバイスをできるような組織というものができないかな、組織なり相談員ですね、そんなものができないかなということをお尋ねしたいわけです。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

介護保険の制度につきまして、私どもも周知に努めているというところがございますけれども、出前講座であるとか、そういったところで職員出かけていきましてお話をさせていただいております。

現在、介護保険第1号被保険者の関係で言いますと、65歳以上の高齢者の方については、約1万2,000人ぐらいいらっしゃいますけれども、先ほどの数字でございますので、要介護、それから要支援等の出現率については、20%を切っているという状況でございます。各家庭でもやっぱり高齢になってくるといろんなところで不自由が出てくるということで、医療

制度のほかに介護制度というのができたわけでございますので、そういった内容についての周知は、先ほど申し上げましたとおり、出前講座、あるいは広報等を通じてこれからも積極的に進めていきたいというふうに思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、これはなかなか組織立ってするという話じゃないと思うんですよ。やっぱり個々で、これは結構プライバシーにもかかわる話なんでね。だから、例えば、民生委員の皆さんたちは大変おつらいかもしれませんが、例えば、民生委員の先生方であるとか、あるいは市役所にも担当の部署がありますしね、だから、そういったところにまずお電話をしていただく、家族の方がお電話していただいて、そこから何か、ケース・バイ・ケースで対応するというふうにしないと、かえってそれはよくない方向に行くんじゃないかなと思いますよね。

一方で、その介護保険の制度を説明しても、私も一回レクチャーを受けたことがありますけれども、ちんぷんかんぷんです、もう正直言って。ですので、今、新武雄病院の鶴崎理事長と話を進めているんですけども、これと健康、こうすればこういうふうにする健康状態を保てますよという、そういう健康講座をきちんと含めてやらないと私はだめだと思っていますので、そういう意味で、個別の対応と先ほど部長が答弁した対応と、もう1つはやっぱり病院ですよ。病院がそういうふうにならね、やっぱりこういうふうにする健康を保って、もしそうなった場合は介護保険というのはこういうふうにありますよというのをセットできちんと説明をする必要があるだろうと、かように認識をしております。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

私もそうじゃないかなと思います。

それで、今、高齢化がどんどん進む中で介護保険料も前の新聞では、12年度厚生省試算では月5,200円ぐらいは考えたらんというふうなことも新聞に載っておりました。そうした場合に、いかにして健康で元気なお年寄りを地域で、みんなで作るかというものが何よりだと思っています。そんなことが今からの市長が言う健康と医療のまちづくり、そこにつながっているわけなんです。

そこで、今、各町の公民館では絵画やら唱歌、いろんなサークルがあります。それらに積極的に参加すること、また、農業など草むしりでもよし、いろんな仕事、責任を分担するということが大事じゃないかと思っています。それとともに、地域でのお友達との交流、各町にあります中央公民館に行く人は決まってしまう限り限られます。ぜひ今後は各部落にあります公民館を活動の中で、今、老人クラブの活動というものが朝日町だけしかわかりませ

んけど、月1回各公民館で行われています。これの回数を多くふやすことによって、公民館に行けばみんなで楽しいおしゃべりをしながら、おのおのが持ってきた漬物やおまんじゅうを食べながら話し合い、そして、その中で、ひとり暮らしのどここの人がきょうは来んざれんやったね、何しとらするうか、帰りに寄っていこうかというような交流、それが今から大事じゃないかと思うわけです。そんなものを推し進めるような事業なり予算等があったら、お尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

市のほうでは、先ほど申し上げましたとおり出前講座等々をやっているわけですがけれども、地区の公民館等をお借りしまして、たっしゅか教室、こういったものの開催をしております。同時に一般高齢者向けの介護予防について行っているというところでもございまして、そのほかにも老人クラブ連合会ではふれあいサロンとか、そういったものを行っていただいているというところでもございまして、たっしゅか体操、あるいはころばん体操、こういったものの普及にも努めているということで、議員おっしゃいますとおり、やはり予防が一番大事ということでございますので、ここら辺については力を入れていきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ公民館の利用というものは大事じゃないかと思っています。公民館の利用といいますと、どうしても区長なり公民館長と自治公民館長あたりのお骨折りになるわけです。その人たちの理解を得ながら公民館の活用というものは、今、市長が一生懸命、みんなのバス等で元気なお年寄りの足をとということも言われております。このみんなの足も、みんなのバスも（発言する者あり）これがいろんなところで利用されて、1つの地域だけでなく、月曜、火曜、水曜と場所を変えて、今、日輪荘の車が曜日を変えてコースをしているような形で、みんなのバスを大いに利用したり、そして、この公民館活動でもどこかモデルになるような地域を指定して、ああ、あそこの地域の公民館利用というものがやっているようにしたら一人寂しく家で家族が帰るのを待つより、楽しい公民館での触れ合いというものができるんじゃないかと思っていますけど、その点、みんなの公民館的な発想で何かおもしろいアイデアでも出して頑張ってもらいたいわけですが、何かなかですか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、もともと公民館はみんなの公民館だと思いますね。それを本当に内実をもっと充実させるために、先ほど議員の御指摘のあった、みんなのバスときちんと連携をするかどうか、そういう公民館がその活動の中心になるというのは私も賛成なんです。

1つ例を申し上げますと、朝日公民館、今、河内館長さんですけれども、一生懸命やられていて、その中でいかに人を呼び込むかということが課題だということもおっしゃっていますのでね。だからそういう意味で、橘町であるとか、若木町もすべてそうなんですけれども、そういう足、みんなの足というのは、それは初めて聞きましたけれども、うまく連動ができるようにまた制度設計をきちんとしていかなというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひみんなのバスと各地区の公民館、また、各町の公民館をつなぎながらお年寄りの皆さんが一人で寂しく家をつぶやくような、つぶやいて愚痴を言うような家族でなく、楽しく元気な老後を迎えれば、介護をいろんな人にお手伝い受けずに自分たちでできるんじゃないかなと思っております。ぜひそういうふうな世の中をつくってほしいと思います。

次に、医療に理解のある武雄を目指してということに移ります。

献血、アイバンク、臓器移植制度があるわけです。この制度とはどういうもので、武雄市ではどう取り組まれておるか、お尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

臓器移植の関係ですけれども、先ほど申されましたとおり、アイバンクの関係につきましては、それぞれの都道府県のアイバンクの協会、これは財団法人でされております。それから、臓器移植の関係全体としましては日本臓器移植ネットワークというところで取り扱いをされているというところがございますので、臓器移植の登録等々につきましては、御承知のとおり、市の窓口、支所の窓口等々に置いてありますし、そういった臓器移植につきましては、法改正等々もなされておりますので、そういったものの周知に努めているというところで、今後とも、先ほど申し上げましたとおり、広報等を使いながら周知をしていきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

この献血カードとか、アイバンクカード、私もライオンズクラブ活動に参加しております。

そんな中で、積極的にこの制度に関心があり参加しているわけです。

武雄は今、新武雄病院というすばらしい病院ができて医療が充実しました。それと同時に、今後このような市民のボランティアといいますか、善意の輪というものも今から広げていくべきだと思っております。ぜひ医療と健康のまちづくりの一端として考えてもらいたいと思います。

次に、人工透析と腎臓移植です。

この問題は、人工透析と言えば1週間に2回なり3回、一生続けなくてはならない治療です。武雄市内にも何人かおられるとお聞きします。そんな中で、それを解決する道というのは腎臓移植です。

私の友人がもう十何年前ですけど、脳梗塞で亡くなりました。そのときにお孫さんが大きな心臓の病気を持っておられて、心臓は移植のほか手だてがないということで、我々、三夜待の仲間やったわけですけど、そのときに臓器移植の話がありまして、我々はみんなが臓器移植の手帳をつくったわけですよ。そして、くしくもそのお孫さんのおじいちゃんが亡くなって、そのときに嬉野の医療センターでいろんな臓器を移植されました。その中でも腎臓を移植されたりしたわけですよ。本人には臓器をもらった方から感謝の言葉というものは直接できませんけど、臓器協会を通じて手紙をもらいまして私たちも見せてもらいました。今まで何年とこの人工透析の苦勞をしたのを臓器によりまして健康になったよということを聞いたときに、ああ、なるほど大事なことだなと思っております。

また、私の中学の同級生は、今度、身内の中でも臓器移植というものが可能となっておりますので、弟が腎臓を、今のような人工透析をしている中で、片方の腎臓を弟に生前に提供したわけですよ。片一方だけでしたわけですよ。今、この弟さんは1週間に3度の人工透析に2時間以上かかってするという生活から解き放れて健康で頑張っておられます。それらを聞くときに、今から私たちもこの臓器移植など大事なことだなと思っております。

ぜひこんなことも市民運動として、新医療、新病院ができて武雄は医療や健康に対して理解があって頑張っているまちだなと言われるようなまちづくり、それもいいんじゃないかと思っております。

また、それと同時にがん対策も一生懸命されております。これだけがん対策、がんは早期発見、発見と言われながら周りにもいろんながんで病んでいる方を見るわけですよ。その点も含めて、武雄は医療に理解のあるまち武雄というものを目指してもらいたいと思っておりますけど、その点市長の心意気はどうでしょうか、お聞きしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私の知人の中でも人工透析をされている方が何人もいらっしゃいます。

まず、何点か御指摘がございましたので、整理してお答えしたいと思います。

まず、武雄市の人工透析者は110名の方が週2回から3回の人工透析を受けられておられます。どこで受けられているかと申し上げますと、武雄市内の2医療機関、近隣市町の嬉野、鹿島、伊万里、佐賀、白石等にある医療機関で受けられているということであります。

これで1つ問題があるのは、一生懸命されておられます。これはもう敬意に値します。医療を提供する側でも人工透析でかなり負担のかかる事業ですので、それは敬意に値するんですが、ただ、やっぱり夕方、夜、実際働いておられる方は仕事が終わって透析をする機関がなかなか少ないということでありますので、その話がちょうど4カ月ほど前に私は人工透析を受けられている方々の集まりに呼ばれました。呼ばれたときに、一番困るのはそこですというお話がありましたので、直ちに私はその足で新武雄病院の理事長の鶴崎さんに話をして、何とか24時間365日はなかなか難しいかもしれないけれども、今の既存の医療機関ができない時間帯でできないだろうかということ、それと、急変時になかなかそういった医療機関というのは腎臓の場合、私もちょっと勉強したら、結構がくってやっぱり血圧降下とか、いろいろあるそうなんですよね。そこになかなか対応できるところが少ないんじゃないかという御指摘をその人工透析をされている皆さんから出たんでね、それを申し上げたところ、今の既存の、川良の山の上の市民病院ではちょっと今、機材の関係でなかなかできないんですけども、今、34号線バイパスに建設中である新武雄病院においては人工透析を実施する予定で、もう検討が進められています。なるべく時間帯もオーバーして、これはちょっと今から調整をさせてもらいますけれども、なるべく長い時間していただくということ、それと、既存の医療機関とうまく連携をしながらしていくということ、それと透析患者の病状急変時、24時間対応の緊急透析も検討をさせています。

そういった意味で、本当にいろいろありました。もう病院問題、もう多くは語りません。ですが、市民の命、健康を守るというのがやっぱり医療機関、なにかずく我々行政に与えられた使命、役割なんです。これはぜひね、今でもう本当に反対された皆さんたちも、だんだんやっぱりそれをわかってほしいと思います。もうわかっていただけたらと思いますよ。ですので、そういう意味で新武雄病院と各医療機関の連携を進めてまいりたいと、このように思っています。

そして、次の腎臓移植の関係なんですけれども、これはなかなか難しいですね。合う、合わないというのがやっぱりあるようで、これは東大の中川先生から教えてもらいましたけれども、マッチングが非常に難しいと。特に腎臓は難しいということは聞いています。心臓とかと比べると臓器の形態が非常に複雑ですので、なかなかこのマッチングが難しいとなっているんですが、ただ、だんだんだんだんニュースで報道されているように、それがいい方向なんです。これは死生観にもかかわる話なんで、日本の場合は特になかなか難しい部分はあるかもしれませんが、これは本当に必要なんだということでやっぱりこれを我々も行

政として広めていく必要があるだろうと。そうすると垣根、ハードルが下がっていくだろうと、臓器移植に対してね。だから、そういう啓蒙活動はきちんとやる必要があるだろうと思っています。

そして、最後になりますけれども、実は、脳手術で神の手の福島教授という世界的に有名な先生がいらっしゃいます。これは、日本で手術が行われるときは和自病院の系列で行われるんですけれども、先般、鶴崎さんと話をしていたときに「ぜひ新武雄病院でお願いしますね」というふうに言うたわけです。「わかった」と言んさったですね。ですので、ひよっとすると、脳の手術で本当に困られている方々がいらっしゃいます。そういった方々を救う手だてに、また、新武雄病院がなる一つの大きなきっかけになることを期待しています。1年ずつとというのはそりゃ無理ですけれども、年に例えば、この期間は新武雄病院ということに多分なるとお思いますので、それは私も側面から、もう今は民間の病院ですので、側面から後押しをしていきたいと、このように思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）

今私が訴えましたように、献血なりアイバンク、臓器移植、困っている方の手助けになるような優しい武雄を目指して頑張っていきたいと思えます。

次に、最後に農政についていきたいと思えます。

本年度の今回の議会に提案されております農業体験研修事業というものがあるわけですが、この事業はどんなもので、期間はどれくらいで23年度も継続される事業なのか、お尋ねしたいと思えます。

○議長（牟田勝浩君）

淵野営業部長

○淵野営業部長〔登壇〕

農業経営体験研修事業の内容についてでございますけれども、これは重点分野雇用創造事業、短期の雇用基金事業に係る地域人材育成事業の一環として取り組む事業でございます。

事業内容といたしましては、失業者の方を新たに雇用した上で地域の企業等に就業するために必要な知識、技術を職場実習、あるいは職場外研修等により取得していただいて一本立ちというか、自立をしていただくというような事業でございます。

農業経営の体験研修事業、この具体的な内容でございますけれども、個人の農家等が失業者の方を新たに雇用し、実際、農作業に従事していただいて農業の知識、技術及び技能の習得を図るということで、農業後継者の育成と新規就業者の参入促進を図るというものでございます。

研修内容といたしましては、農業の体験の現地研修、これはもちろんでございまして、農業機械であるフォークリフトの研修、あるいは農業簿記等々必要になりますので、パソコンの研修ということで、今回参加を予定されている農家人数でございましてけれども、4農家で5人の方が希望をされています。この事業につきましては、一応来年度までということになっています。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

それでは、具体的にどんな人が適用されるのか、また、農業後継者も適用されるのか、お尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

渚野営業部長

○渚野営業部長〔登壇〕

この事業の目的というのは雇用の創出でございまして、農業後継者以外からの就農支援ということでございますので、後継者育成については、別途ほかの事業、あるいは後継者でございまして、農家のお父さん、お母さんがそこについては指導、研修をしていただきたいというふうに思っています。

〔市長「違う」〕

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、ちょっとさっきの答弁取り消しますよ。そうじゃなくて、これは多分、正確な意味で後継者だと部長は答えたと思うんですけども、今回のねらいというのは親子関係にない、例えば、都会の人たちで農業をやりたいという人を育てるという意味で、部長が申し上げたのは狭い意味での後継者のことは、それは違う事業でやりましょうということで、今回の事業というのは広い意味での後継者、社会的な後継者を見つけ出し育成するものだということになっていると私は判断をしております。

その中で、これがうまくいくかどうかはね、ちょっとわかりません。やっぱり本人次第ですもんね。ですので、我々としてなすべきことは、こういう環境をきちんとやっぱり整えるということきちんと広報して、それをうまくバックアップして来てくれた人にね、もうその気になってもらうということが必要なんだろうなというふうに理解をしております。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ということは、私は、農家の息子が派遣社員として働いていて、その雇用契約期間が終了し、再雇用ができないときにその青年がハローワークを通じて親がやっている、例えば、キュウリ農家に雇用されたとします。当然、専従者給与ももらわないということでした場合、このような青年も該当するんじゃないかなと思っているわけですけど。

○議長（牟田勝浩君）

暫時休憩いたします。

休 憩 10時52分

再 開 10時53分

○議長（牟田勝浩君）

再開します。

議事の都合上、5分程度休憩いたします。

休 憩 10時53分

再 開 11時 1分

○議長（牟田勝浩君）

再開いたします。

先ほど、市長答弁、部長答弁の一部食い違いがありましたので、その辺をきちんと整理して報告をお願いしたいと思います。刈野営業部長

○刈野営業部長〔登壇〕

後継者の定義については、広義の意味で市長が答弁をいたしましたとおりでというふうに思っています。

で、私が答えましたのは、事業の趣旨は失業者を雇用するというこの事業の趣旨に沿って答弁いたしまして、先ほど自分の御家族の方が失業して帰ってこられたということにつきましては、これについては、議案審議の際に答弁をさせていただきたいというふうに思います。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

今、緊急雇用対策事業というものは市単独の事業ではないかと思しますので、いろいろとまだ検討するべきであると思います。

しかし、私はここで農業問題と関連したのは、この制度の中では雇用保険など福利厚生事業まで関連し、今までの農業政策は農業施設の導入や農機具導入ということで農業粗収入を上げなさい、もっと働きなさいとなっていたわけです。それがこのような事業になりますと効率よく働いて、休暇がとれる農業をきなさいという時代になると思います。

それと同時に、今大半の企業はこれ以上雇用をしてくれと言っても無理ではないかと思う

わけです。そんなときに農業の後継者が研修として欠員になったところの補充として新たな雇用ということを考えたら雇用対策になるんじゃないかなという私の意見です。そういうふうなことを今後検討されて、いい結果が出ることを期待したいと思います。

次に、イノシシ対策についてに移ります。現状のイノシシ対策についてのお尋ねです。

今、イノシシ対策では地域、すなわち山を抱え込んで山から下らないようにしようということで、いろんな対策がとられております。例えば、メッシュ、すなわち金網で地域を囲い込み、また、電気牧さくで囲い込むなどの対策で山からイノシシがおりてこないような対策が考えられております。その2つの特徴と、また、欠点等があれば、その経費等までわかればわかる範囲内でいいですので、説明をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

渚野営業部長

○渚野営業部長〔登壇〕

イノシシ対策におけるワイヤメッシュさくでの防護ということになりますけれども、まず、ワイヤメッシュの単価です。1メートル当たりの単価、21年度840円、今年度は528円、これは鋼材が安くなってきたのとの関係をしているんじゃないかというふうに思っています。

平成22年度の528円の単価を参考にして、これを2キロ設置した場合は105万6,000円ぐらいかかります。資材のワイヤメッシュさくの購入費だけです。これにつきましては、国庫補助金が50%で、有害鳥獣の協議会からの補助金が10%で、あと受益者負担ということになります。

これまで設置した地区でございますけれども、平成21年度は11地区で7,784メートル、22年度は5地区で9,990メートル、いずれにいたしましても、この欠点というのは、大変有効な策でございますけれども、やはりメンテナンスといいますか、倒れてしまった場合はどうしようもないわけですから、その支柱等々を頑丈にしておく必要があるかというふうに思っています。

いずれにいたしましても、このワイヤメッシュさくによる囲い込みというのは大変有効な方策だというふうに思っています。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

今、ワイヤメッシュに対してどんなものであるかということの説明があったわけですが、今、朝日地区を見ますと、朝日地区の山つきといいますと中野、黒尾、繁昌、川上とあるわけです。そのうち、私たちの黒尾を除いて全部の地区がワイヤメッシュなり電気牧さくを、電気での囲い込みをやっているわけです。そうすると、必然的にあと残っている地域にこのイノシシさんがおりてくるというのが現状です。今私たちの地域で新しい住宅等もふえていて、

その中からは「夜になったらイノシシがいつも出てくつよ。どがんだんとんしてくんしゃい」というふうな声も聞くわけです。そうした場合、地元の役員会として検討をしたわけです。総延長が2キロ以上あります。それで、今出ましたように原材料だけで105万円、人件費を加えますと、その倍以上になるわけです。そうした場合、それを地元ではどうしてもならないので、どがんだんもこうもならんというのが現状です。このことは、よその武雄市内全地域に言えるんじゃないかなと思っております。

それなら、どがんだんがよかろうかということで我々も考えてみたわけです。今、ワイヤメッシュ等で支柱の問題が、支柱が丈夫でなからんばいかんということで言われております。今現在しているもので、それも今のところでは予算内で最高だと思いますけど、山に行きますと孟宗竹や普通の竹、間伐材の木と、いろんなものがあるわけです。私は手ごろなところで孟宗竹あたりを4つ割にしてそれを切り、それをくいにして、今私がちょっと持ってきましたけど、これは花の支柱用のネットです。（現物を示す）これは幅が1メートル50あります。長さは100メートルです。これを先ほど言ったような、竹の支柱を打ち込み、それにこれをひっかけていくわけです。こいなければ、すぐイノシシのかぶりついて入っさいという話もあるわけです。そいなければ、二重にすんだんどがんだんじゃろうかなと思うわけです。

そして、1メートル50あれば1メートルぐらいの高さにして、50センチぐらいを下にはわせません。そしたら、こちらが来たら足なり鼻なりもつれて入るんじゃないかなと思うわけです。それと同時に、上には空き缶を置いて入ったらからんからんと鳴るようなことをし、光が当たれば光る、輝くような形をしたらいい。そしてもう1つ、その手前には1メートルぐらいのところにレモングラスを植える。この3段階でやったらイノシシ対策というものは安くできるんじゃないかなと思うわけです。この網がひ弱かったらもっと丈夫なものがあると思います。そんな形を武雄からの発信としてイノシシ対策にしてもいいんじゃないかと思うわけです。そうすることにより貧弱な財政の部落でも山を囲い込み、地域の――今は農作物だけの被害じゃありません。先ほどの幼い子どもたちがいる新しい家では、子どもたちだけが夜待っている、夕方には待っているということでもあります。どんな被害があるかもわかりません。ぜひ検討されては思うわけです。

どこか一つモデル事業でもやってもらい、イノシシパトロール隊とセットになって具体的な検討されて、その成果が出るんじゃないかと思うわけですが、私の提案に対してどう思われるのか、お尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、モデル地区いいところありますよ。良広さんのところでどうでしょうか。こいは自分がして、どこにメリット、デメリットがあるかというのは御自身でされるのがやっぱり一

番なんですね。

それでこいですね、実はいろんなイノシシの退治の仕方で人の名前をかぶせて、例えば、本郷方式とか、こうああわけですよ。山口良広方式でくっですよ。どうでしょうか、ぜひモデル地区に公認じゃなくて自認ね、よろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、私も私の家を囲むというちっちゃな世間でなく、黒尾地区全体を囲むような形でやって、今も言いましたように、中野、甘久、繁昌、川上と朝日地区の山を囲むことによりイノシシが入ってこない地域というものをつくるべきだと思います。自分の家の畑だけというふうなことでは「あんたがたんだけよかばっかりのう」と言われてもいかんですので、そういうふうな形での道というものを探りたいと思います。

次に、農業所得対策です。

農業政策というものは、どうして農業で食っていけるかというものが大事なことだと思います。そんな中で、今、野菜の販売というもので北九州青果なり福岡大同青果と話をする機会がありました。そして、私たちの地域のキュウリなり、コマツナなり、チンゲンサイ等の農場を見てもらい、その後、地域での直売所で朝日にあります朝日の里、武雄の物産会館、黒髪の里などに連れていくわけです。そしたら、「がんよか野菜のああとね」という話を聞くわけです。

今、福岡なり、私はちょっと北九なりですけど、その地場産品コーナーと言われる、近くという言葉で言えば千菜畑じゃありませんけど、10キロ以内ぐらいの地域から持ち込まれる野菜の数というものが極端に減っているそうです。それは土地の値上がり、後継者不足、こうして地域の農業をやれない環境ということで、どんどん減っているそうです。

そんな中で、この野菜をぜひ市場を通じてスーパーなり料理屋さん等に販売、納入することにより、今、直売所で問題となっておりますが、売れた分が金になるじゃなく、納めた分が金になる農業というものがあるわけです。今ここで応援団ということで朝日の里から野菜をきょう持ってまいりました。皆様に見せたいと思います。

これはネギです。（現物を示す）深ネギです。このようなネギは東京の大田青果に行ってもめったに見られないすごいものです。今、武雄のいろんなお店で見ますと中国産等のネギばかりです。これが今、武雄の黒髪の里にもこのような形で出ています。1本100円です。こんなものを福岡なり北九の料理屋さんを持っていったら、もう今夜すぐ鍋物に入ってしまうようなものです。ほかにもコマツナ、白菜、ホウレンソウ、このニンジンなんかは最高です。武雄にもこんなすばらしいニンジンができます。これらを今いろんな直売所に行きます

と、朝持ってきたネギの上に、また次のネギを乗せてからんころん、もうたくさんのネギが互いにけんかしております。どうしたらこれを、このきれいなままで消費者に届けるか、そんなもの考えるのも農業政策だと思っています。

ぜひ今、直売所に集まっている野菜というものを売れ残りとして持って帰るのではなく、売り切れ御免で市場が買い込むような地場産、福岡県内の10キロ等、今トラックを飛ばせば、このコマツナなんか農家は朝5時から収穫して、もう11時には完了します。それがトラックに乗って、市場は相対取引というものが、8割が相対取引ですので、市場に並べる必要はないわけです。それがもう夕方の3時なり、夕方のレストランには並べるというふうな流通というものができると思います。

今、農家は大変苦しんでいます。ぜひこんな形で販売対策というものをやらしてもらえば農家所得の増大、元気なお年寄りにつながるんじゃないかと思っています。ぜひ検討してもらいたいと思いますが、いかがなものでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

渕野営業部長

○渕野営業部長〔登壇〕

今、議員から提案ありましたように、北九州の市場等々に運ぶ、それが売れ残らないようにということでございますけれども、売れ残ったものを持っていくというのじゃなくて、やっぱり今議員、キュウリとか農協を通じて販売していらっしゃいますけれども、やるとなればそのような方法しかないんじゃないかなというふうに思います。

直売所の販売というのは、やはり高齢者の方の体づくりと言ったらおかしいんですけども、そういう楽しみの一つの中で直売所に持って行って新鮮なものを売るというようなことでございますので、それが全部売り切れるようにするような対策というのは、ちょっと無理だと考えます。

○議長（牟田勝浩君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

突発なことで、すぐ簡単に答えが出るような易しい問題ではないと思います。ぜひいろんな方の意見を聞きながら、武雄市民の、武雄での農業者が、「元気で病院に行く暇のなかごと野菜づくりばやいよおばい」と言われるようなまちづくりというものをやらしてもらいたいと思います。

これをもちまして、私の一般質問を終わります。